

教育委員コラム

教育委員リレーコラム

＜「褒めることが一番大事」「強化学習」＞

教育委員 藤原 将男

先日鶴居小学校開校100周年記念事業で脳科学者の茂木健一郎さんが講演されたという記事が北海道新聞（2月6日付）に掲載されていました。「褒めることが一番大事」とのタイトルで講演内容の一部が紹介されていましたが、その中に「強化学習」というフレーズがあり、前に聞いたことがあるなと思い、以前読んだ事のある茂木さんの本を読み返してみました。その本の題名は、『脳を活かす勉強法 奇跡の「強化学習」』です。

一部をご紹介しますと、人間の脳の素晴らしいところは、新しく学ぶことに深い喜びを感じるように設計されており、脳は学ぶことが嬉しくて仕方がない。脳の特性を知り、自分の脳と上手に付き合うことで学習そのものを楽しめるようになる。「いかにして自分の脳を喜ばせるか」そのために三つの仕組みが必要で、①「ドーパミン」による「強化学習」によって、脳を強化する。②「タイムプレッシャー」によって、脳の持続力を鍛える。③「集中力」を徹底的に身につける。となっており、その手法が紹介されています。

その中で気になったのは、『一生懸命考えていた問題がやっと解けた。その嬉しさを感じた時に、人間の脳の中では「ドーパミン」という物質が分泌されます。そして、もっと効果的にドーパミンを分泌させるため——つまり快感を得るために、脳内では神経細胞がつなぎかわり、新しい神経回路網が生まれます。そのため、快感を生み出す行動が次第にくせになり、二回、三回と繰り返していき、その行動が上達してく。これが「学習」のメカニズムです。特に、試行錯誤を経ることで脳内に強固な神経回路網が形成され、やがて一つの行動に練達していきます。これを「強化学習」といいます。』

また、『「勉強しなくちゃだめでしょ」「何してるの！そんなにぐずぐずして…」こんな言葉を言われたこと（もしくは言ったこと）はありませんか？親や先生にこう言われて勉強している子どもに、ドーパミンによる回路の強化は期待できません。しかたなく、いやいや勉強しているだけだからです。勉強がうまくいかず成績が上がらない子どもは、たいていこの「強化学習のサイクル」が成立していません。そもそも、脳の働きの本質は「自発性」です。脳に何かを強制することは、とても難しいのです。脳はポジティブな期待やほめられた体験を、とてもよいものとして受け止めます。だからこそ「教育過程においては基本的に、ほめることが大切」といわれているわけです。』という部分です。

人間は、問題を解決した時に喜びを感じ、その時にタイミングよく褒められることで更にチャレンジしたくなる、というわけです。確かに自分自身を振り返っても、思い当たることがあります。脳の働きを科学的に捉え、家庭においても、学校・職場においても褒めることを意識したいですね！

(次のリレーコラムは榎本委員です)



弟子屈町教育委員会

〒088-3292 北海道川上郡弟子屈町中央2丁目3番1号 弟子屈町役場
電話：015-482-2945 HP:<http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/>



教育あっちこっち情報

「見えない思いやり」

先日、仕事で車を運転中に、ある押しボタン式の信号機の前に立っている一人の生徒の姿を見た。

何気ない光景の中、その生徒は左右の車列をキョロキョロと見ながら、ボタンを押すそぶりもない。

何をしたいのか気になりつつ、私の車も彼の前を通り過ぎた。どうしても行動が気になり、ルームミラーで後方を確認したところ、車列が途切れ車の通りが無くなったところで彼はボタンを押し横断歩道を渡って行った。

そこで初めてその生徒の思いやりに気がついた。きっと彼は車の流れを止めることなく渡ろうと思い、自らボタンを押すのを待っていたのだろう。

思えば自己中心的になりがちな昨今、一人の生徒の「見えない思いやり」に心温まり、考えさせられる一日となった。

教育委員 菅原 誓之



はじめての釧路朗読会を聴いて！

新年に入って1月15日に、朗読を聴く機会があり初めて参加しました。会場は、釧路市栄町公園横にあるジャズ喫茶「ジスイズ」です。今回で12回目となるそうで、レトロな会場は満員で、補助椅子を出して頂き入場しました。

案内状を戴いたのは、更科源蔵文学賞授与式で、度々弟子屈町にいられています釧路工業高等専門学校の小田島本有先生。今回は、「遠藤周作の世界」と題し4作品で、朗読者も4名でした。開始時間に遅れて2作品のみを拝聴しましたが、静寂の中に朗読は流れ、しばし頭の中の情景に浸る事が出来ました。素晴らしい朗読と、多彩な方々の来場者との出会いで、とても感動しました。

先生方は、釧路朗読文化を広める活動を積極的に行っていて、昨年11月に市立釧路図書館で行われた釧路出身の桜木紫乃さんの時も案内戴きましたが、都合がつかなくてとても残念でした。

ちなみに次回のジスイズ朗読会は三浦綾子特集の予定と聞いています。

教育委員長 小澤 重



絵本の読み聞かせ(2月1日・8日)

川湯小学校では、毎週水曜日朝15分の絵本読み聞かせの時間があります。

話し手は『お話玉手箱』という伊藤芳恵さんが中心の会のメンバーで、私も年に1・2回読んでいます。

子供達は自由参加なので集まる人数は毎回違います。5・6年生になると友達とおしゃべりが楽しいのでしょ、それ程多くはいませんが、低学年の子供達は早くから集まってくれます。

お話を聞いて想像するには集中力が必要です。

様々なお話を聞いて、子供達が心温まる一日を送れたらと思います。

教育委員 榎本 悦子



たくさんのプレゼント

1月23日定例校長会議の日に合わせて3団体から小中学校にたくさんのプレゼントがありました。

紹介しますと、まず弟子屈町防火管理者協議会から防災教育の推進のために子供用防災ずきん150枚、また(株)ツーリズムてしかがからは観光振興のために小学生用エコリストバンド604個、更には天満敦子ヴァイオリンコンサート実行委員会から学校音楽教育の振興のためにポータブルキーボードが小中学校各1台ずつ贈られました。

心のこもったプレゼントに各学校長からは口々に学校現場等々で直ぐに活用出来るものばかりで、心から感謝していました。

今後、大切に活用されるよう願っています。

教育長 小林 俊夫



おめでとう！弟子屈中学校3年A組

昨年末、北海道新聞社などが主催する「第10回全道中学校かべ新聞コンクール」において、弟子屈中学校3年A組の作品が見事準大賞を受賞した記事が新聞に掲載された。「秋月(あきつき)」という題名で、「体験活動は弟子屈の魅力」「災害への意識」「暮らしを支える温泉」「摩周からの恵み」等のテーマで、弟子屈町の魅力や身近な話題を各方面からの取材を通して感じたことが記事にされていた。

中学生の発想力は無限だ、今後もかべ新聞の活動を継続し、町民の目に触れる機会も是非増やして欲しいと思っています。本当におめでとうございました！

委員長代理 藤原 将男



== 編集後記 ==

この「教育委員コラム」も3回目の発行となりましたが、いかがだったでしょうか？なるべくマンネリとにならないよう、5人で頑張っているところです。次回のコラムは榎本教育委員で、発行時期は5月頃を予定しております。

さて、「今年の冬は寒くて雪が多く大変ですよ」と地域のお年寄りと話していたところ、「昔はもっと寒くて雪が多かったよ！」と言われてしまいました…。地球の温暖化は確実に進行しているのでしょうか？



弟子屈町教育委員
委員長 小澤 重
委員長代理 藤原 将男
委員 榎本 悦子
委員 菅原 誓之
教育長 小林 俊夫